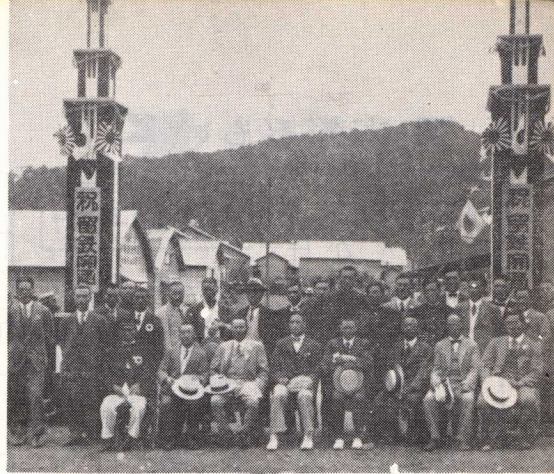


留萌鉄道の創立

港灣整備に拍車



留萌鉄道の開通

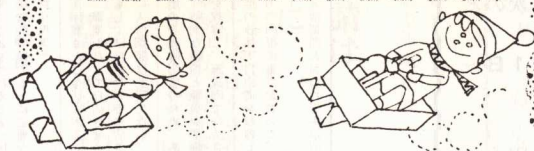
ず、沢田長官による免許譲渡のごとは一応解決をみたが港岸壁の海陸荷役積卸の設備の問題があった。これは大正十五年に建設され、

大留萌建設事業完成のため、新会社の出現は、一つは町債解決の鍵である地価の値上りをねらい、一つには留萌港利用の雨竜炭の開発にあるので重要な意義がある。しかし、予期通りの進捗は見る

憲章は私たちみんなの マチづくりの目標です

留萌市民憲章

- 一、海の資源や山の緑を大切に、美しいまちにしよう
- 一、人に迷惑をかけず公共の物を大切に、清潔なまちにしよう
- 一、さまりを守り、みんなですすけ合う秩序あるまちにしよう
- 一、働くことによるこびをもつて、仕事に精を出し豊かなまちにしよう
- 一、丈夫なからだとあかるい心をもち、平和なまちにしよう



十五万円を資本とし、事業を続ける留萌海陸連絡株式会社の内港南岸軌道を買収する問題であった。留萌鉄道会社の留萌海陸連絡株式会社買収のことは、両者の意見が対立のまま、なかなか一致した案が見当らなかつた。

留萌鉄道会社の当初の計画は、海陸連絡の機関である棧橋設備は港内北岸に東洋一を誇る施設をして、石炭ならびに物資を吞吐する方針で、その機械はドイツに注文中であり、一方認可もそれぞれ手配中であつた。

他方、恵比島炭山までの工事は着々と進められ、浅野、安川を始め各炭破も歩調をあわせて、来年度から出炭予定（昭和四年）であつた。

のことであつた。これに対して、海陸会社は株主総会を開いて討議の結果、必ずしも譲渡に反対ではないが、鉄道会社が南岸に、他の会社が北岸で港頭を占有して資本家が対立しては留萌港の前途に重大な暗影が残るとして、買収の保留が決議された。

昭和三年三月、雨竜炭田開発のため三井、三菱、浅野、安川などの中央財閥および留萌町有志の間で、計画中の留萌鉄道棧橋会社の、設立は東京丸の内工業クラブで創立発起人会が開かれた。

なお、会社の事業としては港灣設備の完成した留萌港に、約七千トン船舶を横づけできる棧橋および石炭木材、その他の運輸機関として恵比島又川間八マイルの留萌鉄道の完成をめざし、事業資本は第一回の払い込みをあてることにした。棧橋および鉄道は昭和四年四月に着工同五年八月に完成し、開通の運びとなつた。

たいせつなお金だからこそ……
おすすめするんです
郵便局の

定額貯金



たいせつなお金 ボーナス・収穫代金
使い道をお決めになる前に
ちょっとひと息いれてみませんか？
ふやしながら使いたい……
大きくふやしてから…など
広がるプランには
郵便局の定額貯金が
お手伝いいたします